

令和2年9月24日

タレンツ・トーキョー実行委員会（東京フィルムメックス）

映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2020」講師・参加者決定、 修了生向け「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」選抜企画発表

映画分野における人材育成事業「タレンツ・トーキョー」は、アジアの若手の映画監督やプロデューサーに、世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供するものです。世界的に実績のある「ベルリン国際映画祭」と提携して実施しています。

近年、世界の主要な映画祭において、修了生たちの活躍がめざましい本プロジェクト。今年も、「Reconnecting Together」のテーマのもと、11月2日（月）～7日（土）までの6日間の日程で行います。例年は、東京に結集し、合宿生活を送りながら様々なプログラムに参加するものですが、本年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の状況を踏まえ、オンラインで実施します。毎年たくさんの方にご来場いただく公開プレゼンテーションも、今年も11月5日（木）に完全オンラインで世界配信をいたします（要事前登録）。

このたび応募選考の結果、15名の参加者（タレンツ）が決定しました。メイン講師には、パク・キョン氏、ビアンカ・バルブエナ氏、セバスティアン・シェスノ氏の3名を迎えます。

また、修了生対象プログラム「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」では、タレンツ・トーキョー修了生を対象に、a) 企画開発ファンド：制作前の企画を実現するための支援（上限100万円）、b) プロモーションファンド：完成間近の作品を後押しする支援（上限50万円）の2種類の資金援助を実施しています。また、c) フェロシップ・プログラムでは、海外国際映画祭に併設された企画マーケットなどへの修了生の参加を支援しています。今年もc) フェロシップ・プログラムは、コロナの影響を踏まえ随時検討しております。

詳細については、別紙1～3をご参照ください。

- 1 「タレンツ・トーキョー2020」メイン講師（別紙1のとおり）
- 2 「タレンツ・トーキョー2020」参加者（タレンツ）（別紙2のとおり）
- 3 ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム選抜企画（別紙3のとおり）

<開催概要>

名称：Talents Tokyo 2020／タレンツ・トーキョー 2020（略称：タレンツ・トーキョー）
会期：令和2（2020）年11月2日（月）～11月7日（土）
会場：オンライン
公式サイト：<https://talents-tokyo.jp>
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会（東京フィルムメックス）
助成：国際交流基金アジアセンター
協力：ゲーテ・インスティトゥート東京
提携：ベルリナーレ・タレンツ（ベルリン国際映画祭）
事業に関する問合せ先：実行委員会事務局 TEL：03-6258-0333

（*本事業は、平成22年度は「ネクスト・マスターズ・トーキョー」、翌23年度から25年度は「タレント・キャンパス・トーキョー」、26年度より「タレンツ・トーキョー」の名称で実施しています。）



別紙1「タレント・トーキョー 2020」 メイン講師



(左から、パク・キヨン氏、ビアンカ・バルブエナ氏、セバスティアン・シェスノ氏)

パク・キヨン (監督)

1987年、韓国国立映画アカデミーを卒業後、すぐに映画監督・プロデューサーとしてのキャリアをスタートさせる。ソウルオリンピックの公式ドキュメンタリーなど数々の作品にかかわった後、英チャンネル4との合作『あの島へ行きたい』(93 パク・クァンス監督)や、BFI『Cinema on the Road』シリーズの韓国編、『シッキム』(95 チャン・ソヌ監督)、『チャン・ソヌ変奏曲』(00 トニー・レインズ監督)などをプロデュース。監督として手がけた作品には『モーテルカクタス』(97)や『ラクダ(たち)』(01)などがあり、特に『ラクダ(たち)』は第16回フリブール国際映画祭でグランプリとシナリオ賞を受賞、世界各国の国際映画祭に出品され話題となった。韓国国立映画アカデミーの学院長を9年務め、その間長編映画とアニメーションの制作プログラムを開始。大きな成功を収め、同校を世界的レベルの映画学校へと押し上げた。新たな人材育成にも力を入れており、釜山国際映画祭と共同でアジアフィルムアカデミーを立ち上げ、アジアの主要な映画人材育成プログラムに成長させる。2007年にはアジアの新鋭映画製作者のさらなる発掘と支援を目指し、シネマデジタルソウル映画祭(CinDi)を創設。数年あまりでデジタル映画やアジアの新たな才能を紹介する重要なプラットフォームの一つとなる。2012年より檀国大学校専門大学院映画コンテンツ研究科教授として教鞭を執る。

ビアンカ・バルブエナ (プロデューサー)

フィリピン在住のプロデューサー、作家兼30本以上のシリーズや長編映画を手がける Epicmedia ProductionのCEO。タレント・トーキョー2012 修了生。代表作は、2009年ベネチア国際映画祭 Lion of the Future (新人監督作品賞) とオリゾンティ部門最優秀作品賞を受賞したペペ・ジョクノ監督作品『Engkwentro』、2016年ベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞したラヴ・ディアス監督作品『痛ましき謎への子守唄』、そしてフィリピンで観客、批評家共に人気を得たアントワネット・ハダオネ監督作品『運命というもの』(14)。現在は、ロカルノ国際映画祭オープン・ドアで講師とEAVEアジア・アンバサダーを務める。2018年には、釜山フィルムコミッション:プロデューサー・オブ・ザ・イヤーを受賞し、アジア太平洋映画賞からアジア太平洋映画に多大な貢献を与えたとして、国際映画製作者連盟賞を受賞した。

セバスティアン・シェスノ（ワールド・セールス）

映画業界で20年以上活動する。これまでに France Télévisions Distribution、セルロイド・ドリームズ、Rezo で働く。2014年の終わりに、年間8本の映画を扱うワールド・セールス企業、Cercamon を立ち上げる。Cercamon とは、オクシタン語で世界の探求者を意味し、同社はメジャーなマーケットと映画祭を網羅する。担当した映画には、ダリボル・マタニッチ監督の『灼熱』（2015）（カンヌ国際映画祭ある視点部門審査員賞受賞）、カミラ・アンディニ監督の『見えるもの、見えざるもの』（2017）（東京フィルムメックス最優秀作品賞受賞）、カーステン・タン監督の『ポップ・アイ』（2017）（サンダンス映画祭オフィシャル・セレクション、ロッテルダム国際映画祭ビッグスクリーンコンペティション最優秀作品賞受賞）等がある。

別紙2「タレンツ・トーキョー2020」 参加者（タレンツ）

監督：

LIAO Zihao（中国）
Shae XU（中国）
林 俊作（日本）
北川未来（日本）
中井ノエミ（日本）
CHIA Chee Sum（マレーシア）
Okkar（ミャンマー）
Hector Barretto CALMA（フィリピン）
Nelicia LOW（シンガポール）
WENG Yu-Tong（台湾）
Puangsoi AKSORNSAWANG（タイ）

プロデューサー：

Nick CALPAKDJIAN（オーストラリア / インドネシア）
Yulia Evina Bhara（インドネシア）
Achinette VILLAMOR（フィリピン）
Geoderic LOMUNTAD（フィリピン）

*氏名（国名／地域名）

選考委員会には、藤岡朝子（山形国際ドキュメンタリー映画祭・理事）、市山尚三（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス・理事長）が参加しました。

一次選考には、深津純子（作家/東京フィルメックス・理事）、金谷重朗（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス）、林 未侑（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス）が参加しました。

*タレンツ名は国名のアルファベット順で表示しています。

*令和2年9月24日時点の情報であり、変更になる可能性があります。

別紙3 ネット・マスターズ・サポート・プログラム

選抜企画：

a) 企画開発ファンド

ZHOU Xinyu (TT2019年修了、中国) <Children>

Sinung Winahyoko (TT2019年修了、インドネシア) <Lintang>

空 音央 (TT2017年修了、日本) <ジシン>

LAU Kek-Huat (TT2015年修了、マレーシア) <Were Tiger>

Alemberg ANG (TT2014年修了、フィリピン) <Some Nights I Feel Like Walking>

Nicole Midori WOODFORD (TT2017年修了、シンガポール) <Last Shadow at First Light>

Ash MAYFAIR (TT2019年修了、ベトナム) <Skin of Youth>

b) インターナショナル・プロモーション・ファンド

ZHOU Hao (TT2018年修了、中国) <Bridled>

Armi Rae CACANINDIN (TT2014年修了、フィリピン) <Whether the Weather is Fine>

*氏名 (タレント・トーキョー修了年、 国名) <企画名>

選考委員会には、池田高明 (NHK エンタープライズ)、市山尚三 (タレント・トーキョー/東京フィルムメックス・理事長) が参加しました。

一次選考には、金谷重朗 (タレント・トーキョー/東京フィルムメックス)、林 未侑 (タレント・トーキョー/東京フィルムメックス) が参加しました。

*受賞者名は国名のアルファベット順で表示しています。

*令和2年9月24日時点の情報であり、変更になる可能性があります。